

事務事業マネジメントシート(平成23年度実績と平成24年度計画)

平成24年 5月28日更新

事務事業名	湯ったり乗ったり弁天カード制度導入事業				<input checked="" type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連
総合計画体系	政策	1	人々が安全に安心して暮らせるまちづくり		所属部	政策部	課長名 内田 秀一郎
	施策	4	公共交通の充実		所属課	企画課	担当者名 坂田 寛之
	基本事業	12	公共交通の利便性の向上		所属班	政策企画班	(内線) 1253
予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	成果優先度評価結果 : ③
	一般	2	1	11	11519		コスト削減優先度評価結果 : ①
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 23年度で終了 <input type="checkbox"/> 23年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 22 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)	

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	65歳以上の市民と障がい者を対象に、実証運行中のコミュニティバスの定期券(月1,600円)を購入した利用者はユーパレス弁天の大浴場の入浴料が400円から100円となり、その減額分300円を補てんする事業である。市長マニフェスト事業として、公共交通の利便性向上を目的に、高齢者の交通事故防止、温泉活用による心身の健康、医療費削減などを見据えた事業として、平成22年度から実施している。 平成23年4月から、老人憩いの家、みどり館の入浴料が100円に統一されたことを受けて、平成23年7月からユーパレス弁天の大浴場の入浴料を400円から100円(300円の補助)で利用できるよう改正を行なった。 定期券は1ヵ月券と3ヵ月券の2種類がある。
【業務の流れ】	①ユーパレス弁天と辻久保営業所での受付と販売 ②制度周知(市広報、市ホームページ、各種団体向け公共交通事業説明会) ③ユーパレス弁天からの実績報告による補助金支払事務
【主な予算費目】	負担金補助及び交付金
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	マニフェスト発表時に、「ユーパレスの温泉が100円で入れる」という認識だけが先行し、ユーパレス弁天には「いつから100円になるのか?」という問い合わせが数件あっている。 平成22年6月15、16日に開催された総務常任委員会において、 1. 市所在の公営温泉施設との利用料の公平さを図ること。 2. コミュニティバスの運行において地域格差の解消に努めること。 3. 65歳以上の市民と障がい者手帳所持者の全体的公平性を確保すること。 以上3点について適切な対応が取られるまでは、予算を凍結する付帯決議が決定された。(その後の対応状況により解除)

1 現状把握の部(DO, PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	新規・拡充区分:
① 手段(主な活動) 23年度実績(23年度に行った主な活動)(DO)	24年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
・制度周知(市広報、市ホームページ、ガイドマップ)、熊本電鉄・ユーパレス弁天によるカード発行業務、ユーパレスからの実績報告による補助金支払事務	・制度周知(市広報、市ホームページ、ガイドマップ)、熊本電鉄・ユーパレス弁天によるカード発行業務、ユーパレスからの実績報告による補助金支払事務
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由
→ ア ユーパレス弁天営業日数	日
イ コミュニティバス運行日数	日
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
・65歳以上の市民と障がい者手帳所持者	(単位)
	ア 65歳以上の市民数
	イ 各種障がい者手帳所持者数(65歳未満)
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
・バスの利用が増える。	(単位)
	ア 弁天カード購入者数(実数)
	イ 弁天カードを利用したことにより以前よりバス利用回数が増えたと答えた利用者の割合 %
*③成果指標設定の理由と24年度目標値設定の根拠	
・各交通機関で円滑に移動できることと、新規事業であるため制度周知のパロメーターとしてカード購入者数を設定した。指標アの平成23年度目標値設定根拠は、月3,000人、1人月4回乗車として実数750人、うち8割が65歳以上として600人、600人のうち2割の120人を目標とした。(次年度以降はメモ欄参照) 指標イは、基本事業の成果指標である「バスを使って円滑に移動できた市民の割合」を参考に設定した。	
総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0	

(2) 各指標・総事業費の推移	単位	22年度		23年度		24年度		25年度		26年度		27年度	
		実績(決算)	実績(決算)	目標(当初予算)	実績(決算)	目標(当初予算)	実績(決算)	目標(当初予算)	予定	見込	見込	見込	
① 活動指標	ア 日		171	342	342	341	341	341	341	341	341	341	341
	イ 日		182	365	365	365	365	365	365	365	365	365	365
② 対象指標	ア 人		10,903	11,000	11,224	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000
	イ 人		1,277	1,338	1,363	1,402	1,469	1,539	1,539	1,539	1,539	1,539	1,539
③ 成果指標	ア 人		9	120	50	25	30	35	35	35	35	35	40
	イ %		62.5	76	0	77	78	79	79	79	79	79	80
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円										
		都道府県支出金	千円										
		地方債	千円										
		その他	千円										
		繰入金	千円										
	(A) 事業費計	一般財源	千円	22	96	564	900	900	900	900	900	900	900
		(A)のうち指定経費	千円	22	96	564	900	900	900	900	900	900	900
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		正規職員従事人数	人	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3
		延べ業務時間	時間	63	63	50	63	63	63	63	63	63	63
(B) 人件費計	千円	259	259	201	259	259	259	259	259	259	259		
トータルコスト(A)+(B)	千円	281	355	765	1,159	1,159	1,159	1,159	1,159	1,159	1,159		

事務事業名	湯ったり乗ったり弁天カード制度導入事業	所属部	政策部	所属課	企画課
-------	---------------------	-----	-----	-----	-----

2 評価の部 (SEE)

*原則は23年度の後評価、ただし複数年度事業は23年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①23年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input type="checkbox"/> 達成した 月8日(16乗車)以上コミュニティバスを利用すると割引効果が得られるが、頻繁に利用しない人やバスカード(割引率10~12%)利用者が多いため、購入者数が増加しないものと思われる。	<input checked="" type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】 ⇒
	②24年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	<input type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由】 当初見込みの設定方法は、ユーパレス弁天の年間入浴者数や高齢者の割合から算出したものであり、過大な見込みであったものと思われる。 今後は平成22年度と平成23年度上期実績値を基に、実態に沿った目標値を設定する必要がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】 ⇒
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 カード代(定期券代)の引き下げや効果的な周知啓発活動を実施することにより、成果は向上する。	<input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 ⇒
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 公共交通とユーパレス弁天の利用促進を図る事業は本事業以外にはない。	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 ⇒
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 大浴場利用者負担額を上げれば事業費は削減できるが、入浴料割引率の低下は購入者数の減少に直結するため、実施は難しい。	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 ⇒
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託できないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 必要最低限の職員数、業務時間数で行なっている。	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 ⇒
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 本事業の趣旨(市長マニフェスト)により対象者は限定されるが、事業の目的や受益者負担は適正である。	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 ⇒
	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 コミュニティバス運行(定期券発行)や柵にしごうしの運営主体は合志市であるので、それを住民や地域・団体に移行することはできない。	<input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 ⇒

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

<p>カード購入者が増えなかったことは、周知不足によるところが大きい。 また、カード代の設定は週2日以上バスを利用する方がお得となる設計だが、3ヵ月券で4,800円となり、高齢者には金額だけで割高感があるようである。 なお、利用者の中には「バスカード」を利用する方も少なくなく、コミュニティバスだけではなく路線バスでも使えるため、利用者が多いようである。</p>

4 今後の方向性(事務事業担当課案) (PLAN)

<p>(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/>廃止 <input type="checkbox"/>休止 <input type="checkbox"/>目的再設定 <input type="checkbox"/>事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/>事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/>事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/>事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/>現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)</p>	<p>(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上			○																		
	維持																					
	低下																					
<p>(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策</p>																						